


学位論文審査結果報告書

報告番号	北里大 甲 第 1108 号	氏 名	小林 啓介
論文審査担当者	(主査) 北里大学薬学部教授 (副査) 北里大学生命科学研究所教授 (副査) 北里大学薬学部教授 (副査) 北里大学薬学部講師	服部 成介 阿部 章夫 今井 浩孝 藤原 亮一	
[論文題目] 細胞内中性脂質代謝を制御する天然化合物の探索および作用機序解析			
[論文審査結果の要旨] 論文審査担当者は、平成28年1月22日14時から2時間、北里大学薬学部3号館3303ゼミ室において、上記学位論文提出者小林啓介氏の学位審査を行った。最初の1時間では、研究結果の発表を質問を交えながら行ない、その後の1時間では、研究データに関する討議を行った。 小林氏は学部学生時より、北里大学薬学部微生物薬品製造学教室において、中性脂質（コレステリルエステル (CE) およびトリアシルグリセロール (TG)）の細胞内蓄積を抑制する天然物のスクリーニングとその精製、構造決定および作用機序の解析を行なった。その成果は同氏を筆頭著者とする論文4報と、共著論文1報としてすでに報告され、いずれも新奇性の高いまた意義のある論文であると判断された。 学位論文の内容は、①放線菌由来 bafilomycin L (BafL) の発見およびその作用機序解析、②放線菌由来 diketopiperazine 化合物の作用機序解析、③真菌由来 dinapinone A (DPA) の作用機序解析から構成され、bafilomycin L および diketopiperazine に関する研究では、化合物の精製、構造決定、細胞への作用機序の実験のほとんどを遂行し、実験の理解も確かなものであった。dinapinone A に関する研究では、単一化合物とされていた dinapinone A が2種類の異性体の混合物であり、その1:1混合物が脂質分解に関与するオートファジーを誘起するという、非常に興味深い知見を得ている。これらの研究成果を記載した同氏の博士論文は学術的価値が極めて高く、それゆえ論文審査担当者一同は、博士（薬学）論文として相応しい論文であると判定した。			